

第 3 回 食育コンテスト「いただきます ごちそうさま」

団体名	社会福祉法人山本福祉会 筑水保育園
代表者 役職・氏名	園長 宮田 芳子
住所 TEL/FAX	(〒839 0826) 福岡県久留米市山本町耳納 90 番地 2 TEL 0942-43-7051 / FAX 0942-43-7052
ホームページ	http://chikusuihoikuen.com
e-mail	info@chikusuihoikuen.com
レポート作成者 職種・役職 氏名	園長 宮田 芳子
園児数又は 団体会員数	園児数 39 名
園又は団体の スタッフ数	保育士 9 名 調理員 1 名

活動名称	耳納山麓の自然の中でこころとからだを育む
テーマ (目的)	豊かな自然の中で体験する、命の尊さ、感動する気持ち、科学の芽生え等を経験し、人と協調し、人を思いやる心など、豊かな人間性とたくましく生きるための体力を育む。
活動を通して 子どもが変わった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の献立を見たり、クッキング保育を通して、家でも作ってみようとする保護者が多くなった。 ・ 年長児がコンポストで給食の野菜くずの堆肥作りを毎日の当番活動として世話をする事による継続でのチームワークと各自の責任感、作業の要領がとても上手になった。 ・ 食材に対して「もったいない」という気持ちが育った。 ・ 給食の献立で園で取れたものかチェックし、自分たちで収穫した物は格別に美味しいと感じている。 ・ 体調が悪いとき以外は 3 才以上児は残食なく、おかわりをして食べる。

社会福祉法人山本福祉会

筑水保育園

食育テーマ

耳納山麓の自然の中でこころとからだを育む

1 はじめに

当園は、久留米市東部の耳納山麓のふもとで、四季折々の自然に恵まれた豊かな環境の中にあります。

子どもたちの家族構成は、祖父母との同居が半数で、専業農家はなく祖父母に造園業がわずかあり、父母ともに企業で働く家庭がほとんどです。

開園以来、食育を保育の一環として取り入れてきました。一日のほとんどを保育園で過ごす子どもたちにとって、身近に良い環境はあっても野菜作りなどを直接経験する機会が少ないからです。そこで、保育園では食育をとおして色々な体験をすることにより、人間として大切な「生きる力」と「からだづくり」ができればと園全体で食育に取り組んでいます。

2 テーマ設定理由

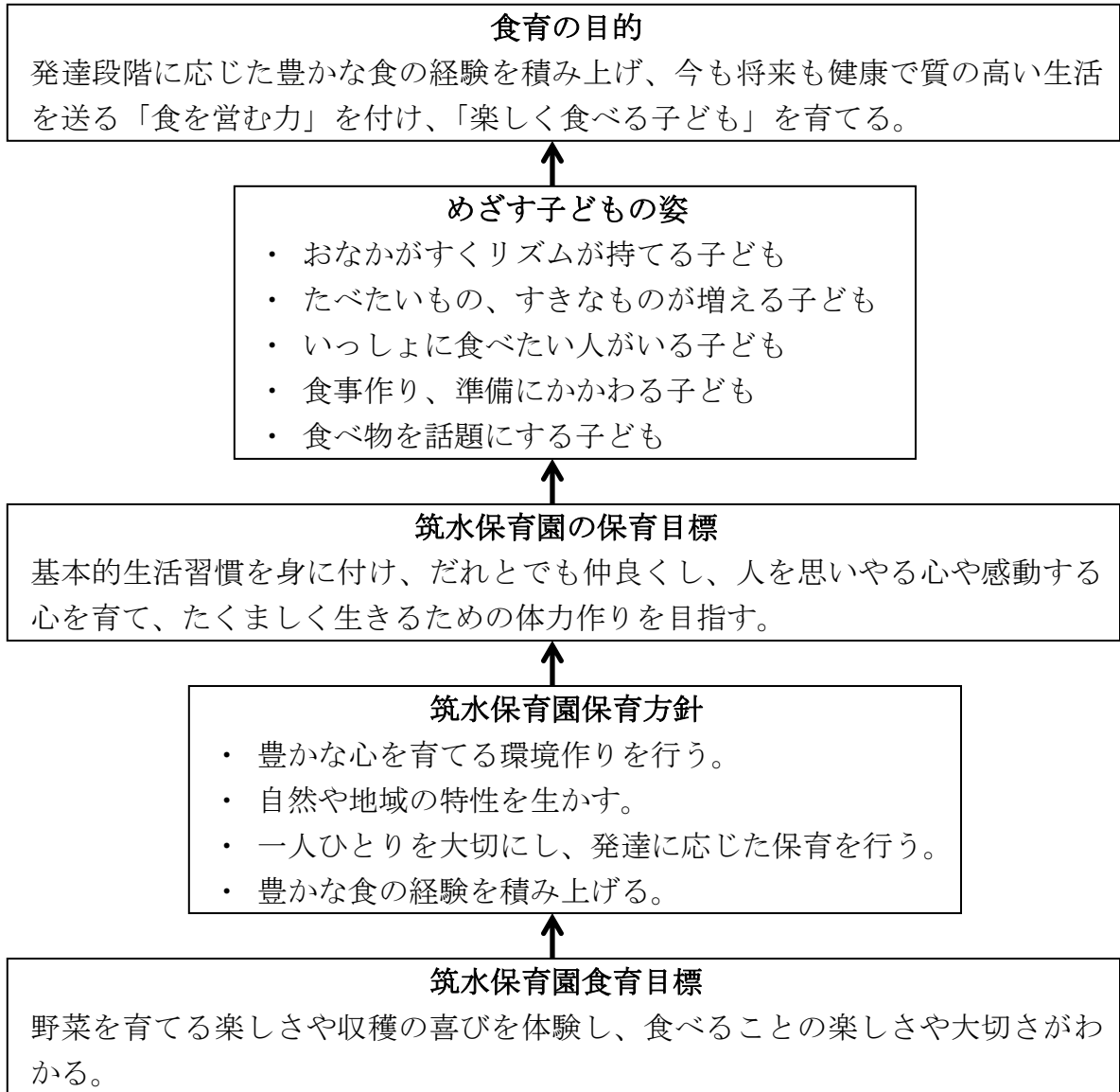
耳納の山には自然の恵みがいっぱいです。その豊かな自然の中で「命の尊さ」「感動する気持ち」「科学の芽ばえ」などを体験し、人と協調し、人を思いやる心など、豊かな人間性とたくましく生きる為の体力を育みたいとテーマを設定しました。

3 目次

- (1) 筑水保育園の食育目標
- (2) 各年齢における食育の実践
- (3) 毎月のクッキング
- (4) 畑づくりと野菜栽培
- (5) 食育を通した心の育ち
- (6) 給食室から発信する食育
- (7) 成果と課題



(1) 筑水保育園の食育目標



年齢	発達に応じたためあて
0・1 歳	いろいろな食材に慣れる。 食べることに興味を持つことができる。
2 歳	いろいろな食材を知る。 食材の味に親しむことができる。
3 歳	自分たちが育てた野菜に親しむ。 食べる意欲を育てる。
4 歳	自分たちが育てた野菜に興味を持つ。 楽しく食べるができる。
5 歳	野菜を育てる楽しさや収穫の喜びを知る。 食べることの楽しさや大切さがわかる。

(2) 各年齢における食育の実践 0・1 歳児

いろいろな食材に慣れる
 食べることに興味を持つことができる

年度初めの様子：家庭では食が偏っており、園の給食の量ほど食べられない。
 歯ごたえのあるものは口の中に残ってしまう。

	子どもの様子	実践・方法	結果
4月	食べ物が口の中に残ってしまう。 泣いて食事が進まない。	食べやすいように小さくする。 保育士が常にそばに付き落ち着かせる。	ごはんだけ飲み込む。 時々食べたいものを食べる。
5・6月	繊維質のもの、肉、魚が噛めない(飲み込めない)。 食べさせてもらおうと食べられる。	「カミカミ」「おいしいね」と声かけをする。 口に入れすぎないように注意し、一口ずつ口に運ぶ。	口が動かない。 野菜は吐き出すことがある。 好きなものだけを先に食べる。
7・8月	好きなメニュー(味)では好き嫌いなく食べられる。 食べ物を手でつかもうとする 食事中に眠くなり泣く。	好きな食べ物の中に苦手なものを入れて、食べられたら褒める。 早めの食事を心がける。 スプーンにのせてあげる。	“スプーンにのせて”とスプーンを指す。 食事後半に口が動かなくなる。 眠くなったら早めに切り上げる。
9・10月	箸で食べることに興味を示す。 食後の果物が励みとなり、食べられる。 他児の様子を見て自分で食べる。 食べこぼしも多いが、自分でスプーンを使い、すくうことができる。手づかみも多い。	“自分で”という気持ちを大切にし、声かけしながら見守る。 「誰が大きい口かな?」「上手」「〇〇食べたら〇〇どうぞ」 食べられたら皆で拍手をし、ほめる。 皿に手を添えたり、食器を寄せたりすることを知らせる。	箸に、はさめたものは意欲的に口に運ぶ。 他児と褒めあいながら食べる。 声かけに反応し、食器に手を添えたり、スプーンを使ったりする。

いろいろな味や食材に慣れてくるにつれて一口ずつ食べられるようになった。他児や保育士が食べている姿も刺激になっている。自分で食べたという満足感を味わうことで食への意欲につながっている。

2歳児

いろいろな食材を知る。
いろいろな食材の味に親しむ。

	子どもの様子	ねらい	保育士の配慮	結果
4月	好きなものだけ食べる。 食事途中で遊びだす。	保育士や友達と一緒に楽しく食事する。	個々の食べる量を把握し、無理なく食べられる量で、自分から食べてみようという気持ちになるよう働きかける。	苦手なものにも挑戦し、食事に集中できるようになった。
5月	保育士に食べさせてもらわないと食べようとしない。	食事を自分でとり、楽しんで食べる。	子どもの励みとなる声かけを行った。「○○くんのかっこいいところ見たいなあ」「○○ちゃんのがんばっているところ見たいなあ」など	ほめられることを期待し、自分で食べようとする姿がみられた。
6月	スプーンやお箸で取りにくいものを、手づかみで食べる。	スプーンやお箸の正しい持ち方を知る。	保育士が正しい持ち方をしして見せる。子どもに苦にならないように進める。家庭でも練習してもらおう。	まだ手づかみで食べる姿もよく見られる。
7月	食欲が落ち、水分ばかり欲しがり、食べ方にむらが出る。	残さず食べたときの喜びを味わう。	食事前にエアコンをつける。テーブルの置き方を変え、配膳を工夫することで、残さず食べようとする意欲を持たせる。	部屋が快適で食事中に眠くなる。あまり食欲は無い様子だった。
8月	野菜を食べようとしない。	野菜に興味を持つ。	園の畑で収穫した野菜に触れさせる。	苦手な野菜を食べようと努力する姿が見られるようになった。
9月	食事中椅子に足を上げたり、お箸や食器で遊んだりしている。	食事のマナーを知る。	食事マナーについての絵本の読み聞かせをする。「○○ちゃん上手だね～」と声かけの仕方も工夫する。	園だけではマナーの改善が進まないため、家庭との連携が必要。

10.月	ごはんだけ先に食べたり、おかずだけ先に食べてしまったりする。	三角食べの仕方を知り、バランスよく食事をする。	「～も食べようね」と声かけをする。	ごはんの上に汁物を入れようとする。家庭の食事の様子が見えてきた。
11.月	生活リズムの乱れから食事中に眠くなってしまふ。家庭と保育園とで食べる量が大きく違う。	家庭と連携し、健康的な食生活をする。	家庭での生活リズムを整えてもらうよう保護者に呼びかけ、園での食事の様子を知らせる。	大人の生活リズムになってしまう家庭が多く、改善の難しさを感じた。

成果と課題

保育士の関わりや声かけによって、食に関する姿勢に少しずつ変化が見られるようになったが、食事のマナーに関しては家庭と連携して改善していく必要がある。



とうもろこしの皮むきをお手伝い



じゃがいも掘ったよ!!



ピーナツをうんとこしょどっこいしょ

みんなでクッキング♪



よもぎ団子を丸めたよ



クッキーの型抜きおもしろいね



自分で作った特製パン！いただきます～す

3・4・5 歳児

3 歳	自分たちが育てた野菜に親しむ。 食べる意欲を育てる。
4 歳	自分たちが育てた野菜に興味を持つ。 楽しく食べることが出来る。
5 歳	野菜を育てる楽しさや収穫の喜びを知る。 食べることの楽しさや大切さがわかる。

① 堆肥作り・土作り



堆肥作り講習中



生ゴミ投入!!



かき混ぜルン

昨年に引き続き、今年度も久留米市より堆肥作りの指導をしてもらい、年長児を中心に給食室から出た野菜くずを利用した堆肥作りに取り組んでいる。子どもたちは「菌ちゃんが熱くなってる!」と野菜くずが堆肥に変わっていく様子に驚き、自分たちから進んで取り組んでいる。

子どもたちが毎日混ぜて作った堆肥を畑に入れる時に「菌ちゃんが土の中で、今度は野菜を元気にしてくれるんだよ」と話し、「きっと美味しい野菜が出来るね」と期待していた。

② 野菜作り



スイカ



夏野菜



グリーンピース



いもづるも食べよう



さつまいも掘り



大根の収穫

年長児の毎日の当番活動として、水やりや草取りに取り組んでいる。「花が咲いていたよ」「小さいピーマンがなってたよ」など、野菜の様子を保育士に伝えにくることもある。収穫時期になると、当番の日を楽しみにするようになり、野菜の大きさや数を比べあっている様子がみられた。保育士が気づかないような畑の小さな変化にも子どもたちが気づいていることも多い。

③ 給食時間



収穫した野菜を使った給食



食欲旺盛!おかわり中



小さい子のお世話も

子どもたちが収穫した野菜は給食に取り入れてもらっている。自分で収穫した野菜は「おいしい」と言っておかわりをしたり、日ごろは好きではない野菜も「食べてみる」と積極的に食べることもあり、残食はほとんどない。食材に興味を持ち、食に関する興味が増した様子が見られた。

④ 環境による食育



谷川でクールダウン



山で採ってきた筍



みつば・よもぎ・のいちご

耳納山麓の自然が豊かな場所にあるため、子どもたちは季節ごとにいろいろな自然物に触れることが出来る。春にはつくし・よもぎ・みつば・のいちご。秋にはぎんなん・むかご・あけびなどが自生するため、散歩に出かけたときに採ってくることもある。採ってきたものを持ち帰り、家庭でも一緒に触れたり味わったりして自然の恵みを感じとっている。

今後の課題

保育園では何でも食べている子が、家に帰ればわがままになり、偏食したり食べなかったりしている。園と家庭との連携し、一緒になって食育に取り組んでいく必要性が増してきている。

(3) 毎月のクッキング

〈ねらい〉 収穫した野菜やいろいろな食材に親しみ、食に関する関心をもつことができる。

月日	内 容	活 動
4/18	よもぎだんご	散歩でよもぎを摘み、団子の生地に混ぜて丸めた。
5/14	ちまき	採ってきた笹で、自分たちで包んだ。ひもは難しいため保育士がかけた。
5/15	野いちごジャム	散歩で摘んできた野いちごをジャムにしてもらう。
5/22	ピースご飯	収穫したグリーンピースを使用した。
6/7	卒園児を招いて カレーパーティー	卒園児(1年生)が年長の時に植えたじゃがいもを使ったカレーを在園児と一緒に食べる。お土産にじゃがいも 1kgずつ持ち帰った。
6/19	じゃがいもおやき	収穫したじゃがいもを使用した。
7/17	栄養チヂミ	年長は包丁を初めて使い、ホットプレートで自分の分を焼いた。
7/19	バーベキュー (お泊りキャンプ)	自分たちが栽培したきゅうりやトマトを使ってサラダにし、トウモロコシ、ピーマンはソーセージと一緒に串に刺して焼いた。
8/6	フルーツポンチ	収穫したスイカの中身をくりぬいて容器にし、いろいろな果物を切って盛り付けた。
9/5	パン作り	子ども達が楽しみながら生地をこね、いろいろな形を作って焼いた。
10/15	さつまいもおやき	収穫したさつまいもを使って生地を作り、丸めて焼いた。
11/20	クッキー作り	園の畑で収穫したピーナッツを生地に混ぜて、4種類のクッキーを作った。
12/16	もちつき	子ども達が自分で杵を持ち、もちつきの体験をした。
12/19	クリスマスケーキ	生クリームを泡立ててスポンジにぬり、いろいろな果物を飾りつけた。

〈まとめ〉

自分たちで育てた野菜は、その野菜が苦手な子どもも進んで食べようとする姿が見られ、クッキングに取り組んだことで、よりおいしく感じる様子が見られた。

年間菜園作り

〈ねらい〉 野菜の栽培を通して生命の尊さ、感謝の気持ち、労働の大切さを知る。

野菜	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
とうもろこし		● (4/6 種まき)	→			←	(収穫)							
ピーナッツ		● (4/6 種まき)	→								● (10/12 収穫)			
すいか		● (4/23 苗植え)	→			←	(収穫)							
トマト・ピーマン ナス		● (4/23 苗植え)	→				←	(8/9~収穫)						
かぼちゃ			● (5/1 苗植え)	→							●			
きゅうり・にがうり ひょうたん			● (5/8 種まき)	→			←	(収穫)						
おくら・小豆				● (6/4 種まき)	→			●	←	(収穫)				
さつまいも					● (6/12 苗植え)	→				● (10/10 収穫)				
大根・人参・かつお菜 ほうれん草										● (10/26 種まき)				
グリーンピース				● (5/23 収穫)							● (11 月種まき)			
ブロッコリー			● (4/3 収穫)							● (11 月苗植え)				
じゃがいも												● (2 月 種植え)		



大事に持っていこう



ゴーヤの日陰



収穫したピーマンを並べて
大満足の笑顔

(4) 畑作りと野菜栽培

	取 り 組 み	子どもの姿	保育士のかかわり
4月	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市より堆肥作りのコンポスター指導を受ける。 夏野菜(ピーマン・トマト・ナス・すいか)の苗を植える。 	真剣に話を聞いていた。野菜の成長を楽しみにしている。	水やりや草取りの話をする。
5月	<ul style="list-style-type: none"> グリーンピース収穫 スイカ畑の草取り・わらしき オクラ・きゅうり・まくわうりを植える。 	はさみを使って収穫し、皮むきをする。豆が何個入っていたかなど楽しんでいた。	来年使う種をとっておく。
6月	<ul style="list-style-type: none"> じゃがいも掘り ひょうたん・ゴーヤの苗を園庭のプランターに植える。 さつまいも苗植え トマト、ナスを収穫する。 	スコップで土を掘るとどんどん出てくるじゃがいもに大喜びだった。20kg 収穫できた。喜んで収穫していた。	つるが伸びていけるようにひもをかける。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ピーマン収穫。翌日給食に取り入れてもらい食べる。 いのししに芋畑を荒らされたため、植えなおす。スイカも全滅。 谷川の水をバケツに汲んで水やりをする。 	自分たちで作った野菜が嬉しく「わあ～保育園のピーマン！」と言って苦手な野菜も食べられていた。	いのししに荒らされないための網を畑の周囲に取り付ける。
8月	<ul style="list-style-type: none"> いのししに荒らされたあとに出来たスイカを収穫する。 収穫した野菜を使って「スタンプング」をする。 	小さいスイカだったが、喜んで味わって食べていた。さまざまな野菜の形を楽しんでいた。	野菜のいろいろな形に気付かせる。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ピーナツの収穫 冬野菜(大根・かぶ・ラディッシュ・ほうれん草)を植える。 ブロッコリーの苗植え 	収穫したピーナツを洗って干す 野菜の名前のプレートを作る。 水やりの当番活動をする。	芽が出たことに気づくのを待つ。
11月	<ul style="list-style-type: none"> さつまいも掘り 	芋づるを引っ張り、大きなさつまいもが出てくるたびに歓声が上がった。	一緒に収穫の感動を味わう。

子どもたちは畑から食べ物を作る喜びを知り、世話の大変さを経験して食べ物に対する考えが変わってきた。食べ物大切さ、食は命であるということもこれからも伝えていきたい。

(5) 食育をとおした心の育ち ～スイカ栽培をとおして～

園から 500mはなれた畑に4月末、すいかの苗大玉3本、小玉2本を植えました。

頻繁にみんなで畑へ草取りや水やりに行き、世話をしていました。

6月の蒸し暑い頃、みんなで汗だくになって草取りをしているとき、Mちゃんが「せんせ〜。男の子が全然草取りしていない」と腹立たしく言うてきました。見ると横を流れている小川の中を竹の棒でつついたり、タニシを取ったり、かえると遊んだりしています。Mちゃんにも男の子たちにも聞こえるように「お世話しないと美味しいすいかが出来ないのね」と声をかけます。世話をしに行くたびにそんな声が飛び交いました。

あるとき1本の苗に元気がなく、いまにも枯れそうでした。保育士が「どうしてかな？」と声をだすと「水が足りないのかなあ？」「男の子が世話せんけんたい」と女の子たちから声が上がりました。

いよいよ収穫の時期になり、初めての収穫は5個でした。皆、自分が持ちたくてたまりません。「自分が持っていく！」と取り合いになりました。じつと様子を見守っていると、リーダー的存在のRちゃんが「ジャンケンすれば？」と声を上げてくれました。

持ちたい子でジャンケンをし、ビニール袋に入れて持ち帰ります。一番大きいのは、20kg.以上もありました。そのすいかは、Aちゃんが持って帰ることになりました。他のスイカを持っている子は重たいので、時々友だちと交代していましたが、Aちゃんは保育士が「重たくない？手伝ってあげようか？」と声をかけても「自分でがんばって持っていく」と手伝ってもらおうとしませんでした。ところがあと10メートルで保育園に着くというところで、その大きなすいかを落としてしまいました。そうなるみんなの視線がAちゃんに集まり、「ああ〜もったいない」「なんで先生に手伝ってもらわなかったの？」とAちゃんを責めました。特にMちゃんが厳しい口調で責めるので、Aちゃんはすっかりしょげてしまいました。

給食の時間に他のすいかをデザートに出してもらいましたが、Aちゃんはすっかりしょげて「すいか食べなくていい〜」と小声でいいました。するとお友だちから「大丈夫。いっぱいあるから食べていいよ。」と言ってくれ、Aちゃんは遠慮気味に食べました。また、草取りを一生懸命していたMちゃんは「草取りをしなかった男の子たちがいっぱいお代わりしてる〜」と厳しい言葉も出ていましたが…。

数日後、また畑に収穫へ行きました。するとAちゃんが「今日はすいか持たない」と言っていました。しかし、お友だちから「大丈夫。いっぱいあるから」と言ってもらったことでAちゃんは、はにかんだ笑顔を見せながら「うん。でも小さいのでいい」と嬉しそうにすいかを運んでくれました。その日もだれかが落として割れてしまいましたが、Aちゃんをはじめ数人が「大丈夫！大丈夫！いっぱいあるから」と落とした子をいたわってくれていました。

このような色々な体験を通して、心も体も育っていくのではないかと感じています。

(6) 給食室から発信する食育

子どもたちに食べることの楽しさと喜びを伝える。

保護者への食育の啓発

取り組み

- ① 試食会
- ② 給食サンプルの展示
- ③ 給食だより

①年1回の試食会

保育園に子どもを預けている保護者は、子ども達が保育園でどんな給食をどれぐらいの量食べているのか、大変興味を持っています。家庭では好き嫌が多く、なかなか食べてくれないという声を聞くことも多々ありますが、保育園ではみんなで食べる雰囲気や、園での生活習慣からほとんどの子ども達が自分の皿に盛られた量を食べきっています。

保育園では年に一度子ども達と同じ給食を食べてもらう「給食試食会」を行っています。

19年度献立	20年度献立
・鮭のオーロラソース焼き	・じゃがいものそぼろ煮
・わかめスープ	・かき玉汁
・和風サラダ	・ひじきの酢の物
・果物	・果物

19年度の試食会では、子ども達が鮭の骨も上手に出し、大根やきゅうりなど野菜たっぷりのサラダをおかわりして食べる姿に驚かれる方や、給食の味付けの薄さに感心される方もいました。また、20年度は保育園の畑で子ども達が種植えから収穫まで体験したじゃがいもを使ったじゃがいものそぼろ煮でした。子どもたちは自分で掘ったじゃがいもに喜び、保護者も子どもが野菜を育てたことに感激している様子でした。ひじきの酢の物も給食では子ども達が好きなメニューの一つですが、保護者は「ひじき＝煮物」という考え方からひじきを酢の物に使っていることに驚き、さらに子どもがたくさん食べていることで、家庭でも作ってみますという方も多くいました。

当たり前のことですが、保護者は子どもの行動や話すことに敏感です。試食会で家庭とは違った子ども達の園での様子を見て、保護者が家庭でも薄味に気をつけてみたり、

一緒に食べる楽しさを大切にしたりすることで、子どもたちにとってよりよい食生活につながることができると思います。

②給食サンプルの展示

保育園では毎日の給食と3時のおやつを、子どもを迎えに来た保護者がすぐに目に付く場所に展示しています。子どもたちは今日食べた給食を見ながらについて「おいしかったよ」「家でも作ってよ」「これがんばって全部食べたよ」など保護者に伝えています。展示している給食の量は年長の5歳児が食べている量ですが、食欲旺盛な子どもたちはおかわりする子も多く、保護者に作り方を尋ねられることもしばしばです。

子どもたちは保育園でたくさんの種類の食品を食べていることから、案外たくさんの食べ物の名前を知っています。いろんなことに興味津々の幼児期に、周りの大人が子どもたちにたくさんの食材に触れさせる機会を持たせることも大事な役割だと思います。

③毎月発行給食だより

これまで取り上げたテーマ

・牛乳の栄養	・おやつの上手な与え方
・食中毒にご用心	・幼児期の気になる食事行動
・朝食の大切さ	・風邪に負けない栄養管理
・食欲がないときの食事	・生活習慣病にさせないために
・夏バテを回復するために	・夜更かししていませんか
・バランスよく食べるために	・どうして虫歯になるの
・おはしの使い方	など

保育園では毎月15日保護者に給食だよりを発行しています。内容は子どもたちが育てた畑の野菜を取り上げたり、毎月取り組んでいるクッキング保育について、そのレシピを紹介したりと、保護者が興味を持って読んでもらえるように作成しています。

保護者の一番の興味は子どもたちです。子どもたちが毎日元気に生活できるように、また将来にわたって健康に成長していけるように、3度の食事を中心にした生活リズムを整えることなどをたびたび取り上げています。

食の安全性が問題になっている昨今ですが、自分で育てた野菜を収穫し、それが料理に使われて口に入ることこそ、安全が見えることでもあります。また、子どもたちは食材に見て触れて、その命を感じることができると思います。

給食だよりで一番伝えたいことは、保護者に食を選ぶ力をつけてもらうことです。食は命であり、食の命を受け継いで自分たちは生きているということを子どもたちに伝えていってほしいと思います。

まとめ

保護者に食について発信していくことはできても、すべての保護者に興味を持ってもらうことはなかなか難しいことであると感じています。しかしながら、自分の子どもに興味がない保護者はいませんし、自分の親に興味のない子どももいません。子どもを通して保護者に働きかけること、保護者を通して子どもたちに伝えていけることは多くあると思います。給食だよりや給食のサンプルといった媒体を生かし、子どもたちがこれから一生関わっていく「食」について、保護者と一緒に考えていくことが給食室から発信する食育の重要な役割だと考えています。

子どもたちが毎日楽しい食生活を送って、食べることに喜びを感じることができ、将来、「食」を大事にできる人に成長してほしいと思います。

地域とのつながり



園では毎年、11月の勤労感謝の日に合わせて、日ごろお世話になっている地域の公民館や郵便局などに子どもたちが自分たちで作ったクッキーを持ってお礼に行きます。

クッキー作りは11月のクッキング保育で取り組み、今年には11月21日を「感謝デー」としてお礼にいきました。

左は毎年交通安全教室を開いてもらっている自動車学校に行った写真です。

地域の方々に「ありがとう」の言葉をもらった子どもたちの顔は笑顔で、感謝する気持ちももらって帰りました。

成果と課題

給食室からの野菜くずをコンポストでの堆肥づくりに利用して、そこから土壌づくり、野菜栽培、収穫へと継いでいく課程をとおして、いろいろな体験ができました。当園では、ゴミの減量にもつながっております。小規模園の為、子ども一人ひとりが力を発揮でき、生き生きと生活できていると思います。また今年度は特に食品偽装問題が騒がれ、保護者にとっても食はとて興味が高かったようです。保育園からの園だより、給食便りで、食に関する発信をしてきたことが保護者の意識の向上にもつながったと思います。また夏の暑い時期は、園舎の日差しが強いところに、にがうり、ひょうたん等植え少しでも園舎の気温が上がらないよう工夫をし、冷房にたよらない夏を過ごすことができました。今後も環境にやさしい生活をより工夫しながら、楽しく活動していければと思います。